



楽々亭通信

第 36 号
発行: NPO法人没イチの会・京都
令和5年10月1日号

9月の楽々亭を 開催いたしました

本願寺派布教使

安堂芳雅

■「死なぬいのちにしてやろう」

月替わりカレンダーも、残り三枚となりました。

なんとか夏を乗りきり、少しゆっくりできるのが十月ですね。

こんにちは、安堂です。よく知られたお坊さんに、良寛さんという方がおられます。

子どもたちと手毬で遊ぶやさしい姿が有名ですが、このような一面もあつたようです。

ある時、良寛さんの庵に村一番の長者が来て、このように言いました。



「私はこれまで、財産があり、家族に恵まれ、健康で何不自由なく生きてきました。しかし、今は人生を楽しむことができませぬ。というのも、初老を迎え、だんだんと死が近づいてきたからです。このことを考えると、不安で不安で何をしても楽しめません。そこで、高德なあなた様に、祈禱をお願いしたいのです。もちろんお礼はお望み通りさせていただきます」

良寛さんは、「万事承知した。」と長者の頼み事を受けました。

良寛さん 「それでは、あなたの願いをお聞きしましょう。では、いったい何歳まで生きたいのですか？」

長者 「今、六十五歳ですから、あと十年は生きていたいです。」

良寛さん 「承知した。では七十五歳になった朝、コロツと死ぬことになるが、それでもよいかな？」

長者 「そうですね。もう十年、八十五歳でお願いします。」

良寛さん 「承知した。では八十五歳になった朝に死ねれば、それでよいのだな？」

長者 「うーん……。それでは、もう十年加えて、九十五歳でお願いします。」

良寛さん 「承知した。九十五歳の朝に死ねば、後悔せんのじゃな？」

長者 「いえいえ、できれば百歳まで生きたいのですが、それはあまりに厚かましいですよね？」

良寛さん 「承知した。それでは、百歳の朝に死

ねば、満足じゃな？」

長者 「そういう訳ではありませんが、死なないようになつてお願ひしても、さすがに無理でしょうから……。」

そこで、「バカモン」と一喝。

『ならば、なぜ初めから“死なぬいのちにしてほしい”と頼まんのじゃ』

阿弥陀さまは、百歳、二百歳どころか、「死なない仏にしてやろう」とお誓い下さつた仏さまじゃ、と諭されたそうです。

〔月刊誌 西別院〕より

■不老長寿と不死

誰もみな、いつまでも若々しく長生きすること（不老長寿）を目標とし、

その長生きの後、なお一年、さらに三年……と願ひます。

ですから、「なら、ここまで」と言われても「うー

ん」、「いえいえ」、「そういう訳ではないけれど」、長者さんの気持ち、わかりますね。

ただ、どれほど欲張つても、長寿は長寿です、不死ではありません。

長生き（長寿）が人生の生きがい、目的になつていませんか？

そして、長者さんのように、「死なないようになつてお願ひしても、さすがに無理でしょうから……。」と、自分で決め込んでしまつていませんか？

私たちが、頼むより先に、願うより先に、あなたを、「浄土に生まれ、死なぬ仏としてやろう」と、願つてくださったのが阿弥陀さまです。

そのはたらきの中、私たちは、この世のご縁尽きた時、お浄土に生まれてゆくいのちを、「死なぬいのち」を今いただいているので

す。

■余談

このお話の中で私が好きなのは長者さんの、「ほんとのところ、百は生きたいと思ってるんだけど、それはあまりに厚かましい。」という件くだりです。

九十五歳で往生した、祖母は、筆筒の整理をしようと衣類を出してはみたものの、一枚も捨てられず、また引き出しに戻しながら、

「こんなにたくさん。わしゃあ、何年、生きるつもりやろ、厚かましいねえ。」と、恥ずかしそうに笑っていました。



娘が亡くなりました

思い返せば2年前娘が肺がんでステージ4と言われて、私はあたふたとして何をどうすれば良いのか慌てふためいていたのを思い出します。その時は私も肺がんで手術をしたばかりでしたのですが、娘は手術が出来ない状態だということを知り、何をどうしていいか分からずただ悲しみにふけていました。そうしたとき娘は「お父さんが死ぬのは病気では死なない寿命で死ぬのだから、心配しなくてもいいよ」と私を逆に慰めてくれました。

娘は理数系で真っ直ぐな性格で曲がったことが大嫌いで会社でも社長にそうしたところを気に入られたのか、専務として全責任を持って会社の経営に関わっていました。良く晩年は私に小遣いを送ってくれていました。私には娘と息子の二人しか子どもはいません。娘はかしこい娘で理数系ですが、息子は逆に文系です。そんな二人を私は

こよなく愛していました。

娘はこの二年間は色々さんと闘いました。食べるものや運動も率先してやるようになり病院も東大病院という一応名の通ったところに通っていました。

令和5年8月29日未明娘は帰らぬ人となりました。電話でそのことを聞いた時私は覚悟をしていたとはいえ、一瞬信じられない気持ちでその後娘の顔を思い出して泣けて、泣けて仕方なく泣けて大きな声で泣きました。もうこの世で娘に会えないのだと思うと泣けて、泣けて、仕方がありませんでした。息子がそんな私の姿に驚きと、どうして良いのかわからない風情で、じっと私を眺めていました。息子も姉を亡くし悲しくて泣きたい気持ちだろうと思いますが、じっと我慢して気丈夫に振る舞っている深夜でした。

この手記は書きたくないのですが、ご心配していただいていた皆さんに、ご報告しなければと書いていますが、申し訳ありません、苦しくてこれ以上は書けません。

皆さんのご厚情を熱く御礼申

し上げます。

籠谷 弘



写真は6月のものです。

楽々亭 10月の予定
10月18日(水)
西京区役所洛西支所会議室
午前10～12時
9月に開催した場所です。

楽々亭通信
発行元：NPO法人 没イチの会・京都
住所：京都市西京区大枝北沓掛町一丁目5番地2-406
TEL：075-874-5320 FAX：075-874-5328
MAIL：kago@botuichi.com

●楽々亭通信では、皆様の投稿を募集しております。身の回りの出来事や体験談など、何でも結構です。楽しかったこと、つらい思いをしたことなど、様々な胸の内を皆様と共有して行きたいと考えております。